＜山梨県山梨市の取組＞

【統合による魅力ある学校づくりの取組モデル】
○コミュニティ・スクール導入により統合に係る諸課題を解決した例

１．市町村の概要

◆人　口：35,536 人（平成 29 年 10 月現在）

◆小学校：　８校，児童数　1,753　人　　◆中学校：　３校，生徒数　951 人

※学校数，児童生徒数は平成 29 年 5 月 1 日現在

◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

本市は平成 22 年１月に「山梨市小・中学校適正規模研究委員会」を設置し，望ましい学校・学級規模について検討を行った。その後，平成 24 年４月に「山梨市小規模校教育環境検討委員会」を設置し，小規模校の保護者を対象にアンケート調査を行ったり，区長から意見聴取を行ったりするなど保護者・地域住民と協議を重ね，平成 27 年２月に牧丘第一小学校，牧丘第二小学校，牧丘第三小学校，三富小学校の４校を統合することが決定された。その後，同年６月に牧丘・三富統合準備会を立ち上げ，平成 28 年４月に山梨市立笛川小学校を開校した。

２．研究タイトルと研究課題

◆研究タイトル

・タブレット端末の教育利用による統廃合課題の改善について

◆研究課題

・コミュニティ・スクール導入に向けての研究・協議
・統廃合に伴う学校施設の計画的な利用及び地域人材の積極的な活用
・ICT 機器の活用による会議資料等の精選及び効率化への対応
・アクティブラーニングによる地域のよさや伝統・文化等を実感できるカリキュラムの開発
・タブレット端末の活用による家庭学習の習慣化と効果的な学習方法への対応

３．調査研究対象校の状況

◆調査研究対象校

山梨市立牧丘第一小学校（～H27）児童数 116 人，８学級
山梨市立笛川小学校　　（H28～）児童数 169 人，９学級
（牧丘第一小・牧丘第二小・牧丘第三小・三富小の４校を統合）

◆調査研究対象校を統合することとした背景・理由

牧丘・三富地区の児童数の減少（３校で５学年が複式の状態），児童数の多い学校で学ばせたい保護者の区域外就学希望の増加，若年層の地域外流出などの現状を踏まえ，児童にとって望ましい教育環境はどうあるべきか委員会を立ち上げ，保護者・地域・学校・行政で検討した結果，統合を決定した。

◆統合に至るまでの過程

・調査研究対象校の統合を決定するまでの期間　２年 10 ヶ月
・統合を決定してから開校に至るまでの期間　　１年２ヶ月
・開校年度：平成 28 年度
・統合の状況：牧丘第一小，牧丘第二小，牧丘第三小，三富小の４校を統合し，牧丘第一小の地に笛川小学校を開校

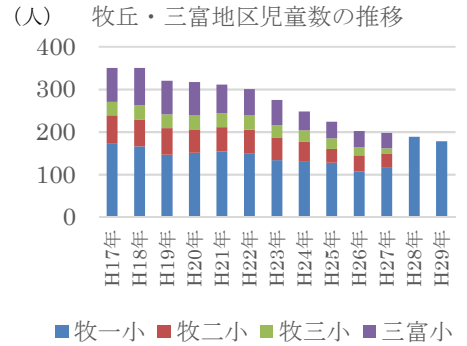
◆統合による学校の教育環境の変化の状況

・児童の通学状況の変化 … スクールバスを３路線運行
・施設の整備 … 牧丘一小を改修して使用（外壁色・ICT・空調）
・地域との連携状況 … 学校運営協議会を設置し，地域住民が学校運営に参画できるようにするとともに，読み聞かせボランティアや和太鼓の指導など地域人材を積極的に活用している。

◆調査研究対象校の位置

牧丘・三富地区は山梨市北部の山間地に位置する。牧一小，牧二小，牧三小，三富小が統合し，H28 年度笛川小に。校舎は牧一小校舎を利用。

◆対象校の児童生徒数の推移



４．本調査研究において取り組んだ内容

◆小規模校の統合に対する不安の解消

統合に向けた議論の中で，「地域から学校がなくなることで，地域の衰退が加速するのではないか」，「旧校区が，新たに誕生する学校を中心とした一つのコミュニティとしてまとまるのか」といった不安の声が多く出された。このような地域との関係の希薄化に係る不安を解消するため，本市で初めて笛川小学校をコミュニティ・スクールに指定し，保護者や地域住民が学校運営に参画できるようにした。なお，学校運営協議会の委員には，統合した旧４小学校の地域の代表者を含めるとともに，「学校運営協議会だより」を作成し，本市の広報とともに全戸へ回覧できるようにした。

◆統合後の学校づくり

（学校統合後の児童生徒の社会性の育成）

・異学年児童の交流による多様な人間関係を構築するため，縦割りの班活動の充実を図り，「笛川小子供まつり」を開催した。社会性・コミュニケーション能力の一層の伸長を図るため，まつりには，市役所職員や駐在所の警察官，社会福祉協議会の職員，地域住民を招いた。

・保育所，中学校と合同の取組を行うことで社会性の育成を図った。具体的には笛川小学校において「こどもまつり」を企画・開催し，校区内の保育所の年長児を招いたり，笛川小学校児童が笛川中学校に，笛川中学校生徒が笛川小学校に出向いて「あいさつ運動」を行ったり，小・中連携プロジェクト「耕作放棄地『棚田』の再生」を行ったりした。

（地域の良さや伝統文化を実感できる教育活動の充実）

・統合を機に，児童が郷土に誇りを持ち，児童の郷土を愛する気持ちを育成することを目的とした郷土学習の開発に取り組んだ。具体的には，耕作放棄地を再生し，昔ながらの棚田の景観を取り戻す活動を中学校と連携して行った。

・旧三富小で行われていた和太鼓の演奏「笛吹童太鼓」を継承すべく，クラブ活動として位置付け，三富地区の住民の指導を得ながら練習を重ねた。

（ICT 機器を活用した実践）

・笛川小学校を ICT 機器活用研究指定校，機器活用センター校に指定した。笛川小学校では全学年でタブレット端末を活用した実践を行い，協同的な学習の促進，話し合い活動の充実について研究を行った。また，校務支援システムの試行的な運用による業務改善についても研究を行い，これらの成果を本市の小・中学校に普及した。

５．研究の成果と今後の取組

本市は，統合によってこれまでの地域の良さが失われないようにすること，広範囲に及ぶ校区を一つにまとめ，学校を中心とする新たなコミュニティを形成することを目的として，コミュニティ・スクールを導入した。コミュニティ・スクールの導入は，「地域とともに新しい学校を作り上げる」という地域住民に向けた宣言となり，学校運営協議会の存在が地域連携や学校支援の核となった。その結果，統合前に挙がった学校と地域社会との関係の希薄化に係る不安は緩和された。

また，統合を契機に，タブレット端末を活用した学習方法を検討したこと，牧丘・三富地区の地域資源を活用した郷土学習の開発したことによって，下に示す通り，統合に対する児童及び保護者から肯定的な評価が得られた。

質　　問		肯定的な意見	H28	H29
○笛川小の生活は楽しいか	【児　童】	楽しい	94.0%	93.2%
○４つの小学校が笛川小になってよかったか	【児　童】	良かった	91.0%	89.2%
○お子さんは笛川小に楽しく通っているか	【保護者】	楽しい	98.0%	96.9%
○４つの小学校が笛川小になって良かったか	【保護者】	良かった	96.0%	91.9%

６．学校の統合に課題を抱える自治体へのメッセージ

コミュニティ・スクールを導入し，学校運営協議会委員に統合した旧４小学校の地域の代表者を含めることによって，統合に伴う地域の課題等を詳細に把握するとともに，地域資源の活用が円滑になった。統合前は通学区域が拡大することによる地域との関係の希薄化が懸念されたが，コミュニティ・スクールの導入よって，本市では「学校が関わる地域の広がり」というメリットとなった。